

## <第4702回>

目的地：高島トレイル part4

担当者：白神

実施日：2026年4月25日(土)～26日(日)

形式ロングトレイルテント泊縦走

費用：¥1,980(JR 京都⇄安曇川往復) ¥1,540(安曇川駅⇄朽木学校前往復)

¥4,900(タクシー朽木学校前⇒横谷峠)3人で割り勘

¥220(針畑ルネッサンスセンター⇒朽木学校前)高島市コミュニティーバス

参加者：3名

行程：

25日(天気：晴)

京都駅(7:23)⇒(8:20)安曇川(8:33)⇒(9:08)朽木学校前BS(9:10)⇒(9:30)横谷峠(9:40)→

(10:30)P693→(11:00)池原山分岐(11:05)→(11:45)駒ヶ岳南尾根[昼食](12:05)→(12:45)

駒ヶ岳(13:00)→(14:00)与助谷山(14:10)→(14:55)桜谷山(15:05)→(15:25)木地山峠

[水場水調達](15:45)→(16:10)P711[テント設営・夕食・就寝](20:00)

26日(天気：晴れのち曇り)

(3:30)起床・朝食・テント撤収(5:00)→(5:50)百里ヶ岳(6:05)→(7:00)根来坂→(7:15)展望台

(7:30)→(7:40)おにゅう峠→(9:45)P803→(10:45)ナベクボ峠[ザックデポ](10:55)→(11:20)

三国岳(11:25)→(11:45)ナベクボ峠(12:00)→(12:35)三国岳登山口→(13:00)生杉BS→(13:15)

針畑ルネッサンスセンター(13:33)高島市コミュニティーバス⇒(14:25)朽木学校前(14:35)⇒

(15:10)安曇川駅(15:17)⇒(15:58)京都駅[解散]

感想：

朽木学校前から乗ったタクシーの運転手さんが気のいい方で、快く横谷峠まで連れて行ってくれました。この約1時間の時間短縮が後々私たちを助けてくれることになりました。

横谷峠からはまず一気に中央分水嶺の尾根まで登ります。いきなりの急登は堪えますが、尾根に出してしまえば、小さなアップダウンを繰り返しながら、心地よい新緑の中を歩くことになります。今回のコースはアプローチが高島トレイルの中でも難しいエリアで、歩く人も少なく踏み跡は全体を通してかなり薄いです。尾根が開けた場所は気をつけないといけません、基本的に一番高い尾根を歩いていけばコースを外す事はないかと思います。

木地山峠には少し余裕を持って着きましたので、5分ほど下った沢で水を補給した後、本日のテント場を求めて先に進みます。地図によればP711付近に少し開けた場所がありそうです。思っていた通りP711付近でテントを設営出来そうな場所を見つけ、本日の幕営地としました。食事は当初の予定を変更して鶴田シェフによる肉じゃがを共同食でいただきました。

8時頃就寝。夜中中風は強かったのですが、テントを張っている場所に風はほとんど吹かず、テントがバタバタすることはありませんでした。

翌日は3時30分に起床し、マルタイ棒ラーメンの朝食を食べた後、手早くテント撤収です。

2日目もまずは百里ヶ岳への登りからスタート。百里ヶ岳は今回のコースで一番多くの人に登られている山です。山頂の「山頂のおと」by 小浜山の会に新緑の高島トレイルの素晴らしさを記帳しておきました。

百里ヶ岳からは今までに比べると踏み跡もかなり明瞭になりました。下山を始める予定のナベクボ峠には、当初予定していたバスの1本前のバスでも余裕のある時間に着きました。次回の高島トレイルに向けてコースに余裕を持たせるために、ザックをデポして三国岳まで往復することにしました。三国岳は京大芦生研究林の境でもあります。ただしここから研究林へはガイドなしでは入れません。

ナベクボ峠からの下山ルートは今までのコースとはうって変わって、谷筋の斜面に切通しで作られた少々危ないルートでした。

生杉の集落、民家や施設らしきものは点在していますが、人に会うことはありませんでした。さらに言うと、今回のコースでは2日間にわたって、一人の登山者とも会うことがありませんでした。こんなに素晴らしいコースなのに、みんなに歩いて欲しい反面、静かな山のままであって欲しいとも思う2日間でした。